

1 単元名 Unit 3 What kind of job are you interested in?

2 単元設定の背景

教材観

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編では、話すこと[やり取り]について、「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」とある。本単元では、登場人物が職場体験に行く内容になっており、悩んでいることについて、対話を通して解決していく場面が設定されている。言語材料として不定詞が扱われており、行動の目的や感情の原因を示しながら、自分の考えなどを論理的に、かつ端的に伝え合うのに適している。

このように、相手意識をもって事実や考えを伝え合う活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現する力を養うことに適した教材である。

生徒観

本学級の子供は、積極的に外国語でのコミュニケーション活動を行っている。令和8年6月に実施したアンケートでは、「英語でやり取りをすることが楽しい」と回答した生徒が約半数であり、一方で「英語でやり取りをすることが不安である」と回答した生徒は約40%であった。やり取りをする上で難しいと感じることとして、約70%の生徒が「自分の伝えたいことを英語でどう伝えればよいか分からない」と回答した。また、会話が止まってしまった際に「簡単な英語や知っている単語で伝える」や「ジェスチャーを用いて伝えようとする」と回答した生徒が半数以上いたが、その一方で「何も言えなくなってしまう」という生徒が約20%、「日本語で話してしまう」という生徒が約50%であった。

以上のことから、外国語におけるやり取りに楽しさを感じている一方で、表現や単語に不安があり、外国語でのやり取りをうまく継続することができていないと考えられる。

集団観

本学級では「それぞれが何事にも積極的に取り組み、互いを尊重し合える学級」を理想の学級としている。上記アンケートでは、英語でやり取りをすることに関して、難しいと感じることとして、約40%の生徒が「自分の言っていることが伝わるかが不安である」と回答した。「やり取りの技能を伸ばすためにどのような練習が必要だと思うか」という質問に対しては、自由記述であったが、約50%の生徒が「よく使う会話表現や返し方のパターンを覚える」、「英語の会話文や音声を聞いて表現や流れを学ぶ」などのインプットが、また約90%の生徒が「実際に英語で会話する」、「間違いを恐れずに発話する」、「英語でのやり取りに何度もふれる」などアウトプットが重要であると回答した。

外国語の授業でも、インプットとアウトプットを繰り返し、何度も試行錯誤して取り組むことで、失敗を恐れずに挑戦したり、互いの意見や発言を受け止めることで、互いを尊重したりしようとする集団を育てる。

指導観

相手意識をもって事実や考えを論理的に、かつ端的に伝え合えるようになるために、次の2点を重点的に指導する。①活用場面を見通した繰り返し練習の設定：学習した表現について、帯活動を中心に繰り返し実施する中で、活用できることをめざす。その際、その場面や他者を変更する中で繰り返し使用する動機づけを高めるとともに、場面や他者に応じた表現を選択できることをめざす。②活動後のフィードバック：生徒の発話を全体で確認する時間を設定し、その発話における表現の適切さについてフィードバックを行う。その際、生徒からのフィードバックも行い、よい点や改善点について、互いに気付き合えることをめざす。③学習した表現を活用するコミュニケーション活動の設定：①において習得した表現を実際のコミュニケーションの場面で活用できるよう、目的・場面・状況を明確にした活動を設定する。

3 単元の目標及び計画(全13時間)

■単元の目標

三原市にきた外国人観光客に、三原市を楽しんでもらえるような旅行プランを提案することができる。

■単元の計画

第1次	Part1(不定詞「to」副詞的用法)・・・・・・・・・・	3時間(本時3/3)
第2次	Part2(感情の原因を表す不定詞「to」)・・・・・・・・	2時間
第3次	Read & Think1(不定詞「to」形容詞的用法)・・・・	2時間
第4次	Read & Think2(it...to...)・・・・・・・・・・	2時間
第5次	Stage Activity1・・・・・・・・・・	4時間

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 三原市でのおすすめ旅行プランについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、不定詞「to」などを用いて、行動の目的や感情の原因などを踏まえ、論理的かつ端的に伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	三原市にきた外国人観光客に、三原市での旅行を楽しんでもらえるよう、おすすめの三原市での旅行プランについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	三原市にきた外国人観光客に、三原市での旅行を楽しんでもらえるよう、おすすめの三原市での旅行プランについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

5 本時の学習

■目標 行動の目的を明らかにしながら、三原市内の観光地について、紹介したり、質問や要望に応えたりできる。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

同じトピックに関して繰り返しやり取りを行い、他者からのフィードバックを受けることで、より適切な表現を用いようとしている。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場合 小 : 小集団 個 : 個人) ㊟ : 留意点 ㊠ : 評価の観点 (方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 帯活動を行う。 (2) 前時の復習を行う。	(1) 英語でコミュニケーションをとろうとする雰囲気を作る。 ・リアクション表現を使用することを通して、やり取りを継続発展させる。 (2) 前時に学習した不定詞「to」(副詞的用法)を用いることで、端的に目的を伝えることができることを確認する。	(全) 英語の授業は安心して失敗できる雰囲気を作ることを意識する。 (全) 生徒との対話を通して例文を提示し、全員が共通の認識をもてるようにする。
2. 学習課題の設定	(3) 学習課題を設定する。 最適な三原の観光スポットを提案しよう。	(3) 三原市の観光地について、何のために行くのかを子どもに問いかけ、めあてを想起させる。	(全) 全員で確認することで、共通の目標に向かって活動できるようにする。
3. 学習課題の追求 (ペア活動) (表現活動)	(4) 不定詞「to」(副詞的用法)を用いた言語活動を行う。 (5) ペアトークを行う。	(4) (1) で学習した表現を用いて、お互いが安心して活動を行うことができるようにする。 (5) 三原市内の観光地について情報を提示し、ペアトークで目的やどんな人に適しているのかを自然と伝えたり、要望に応えたりできるようにする。 ㊟ 対話において、適切な表現を用いることができているかフィードバックを与える。 ㊠ 場面に応じた自然な流れで対話が行われていたか。(発表・発言)	(小) ペアで行うことで、全員が安心して活動に参加できるようにする。 (全)・(小) 全体で使えるよう表現や、やり取りの例を示したうえで、ペア活動を行う。ペア活動の振り返りを全体で行い、試行錯誤しながら改善できるようにする。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 本時のねらいから活動を振り返り、次時につなげる。	(6) ペアでのやり取りを振り返らせ、内容や表現について、今後の見通しをもたせる。	(個) 各自で本時の学習を深く振り返ることができるようにする。